

百年ぶりに中也がかえる

中原中也展

—— 中也が遊んだ金沢の幼稚園にて ——

PHOTO-KUNST-ATELIER
T.GARIGA TOKYO.

18歳の中也

9月18日(土) ~ 11月7日(日)

■記念講演会

講師: 中原豊氏(中原中也記念館館長) 9月26日(日)午後2時~

■中也の詩をイメージした写真展(同時開催)

後援 中原中也記念館・北國新聞社・テレビ金沢

金沢ふるさと偉人館

〒920-0993 金沢市下本多町6番丁18番地4 TEL(076)220-2474
<http://www.kanazawa-museum.jp/ijin/>

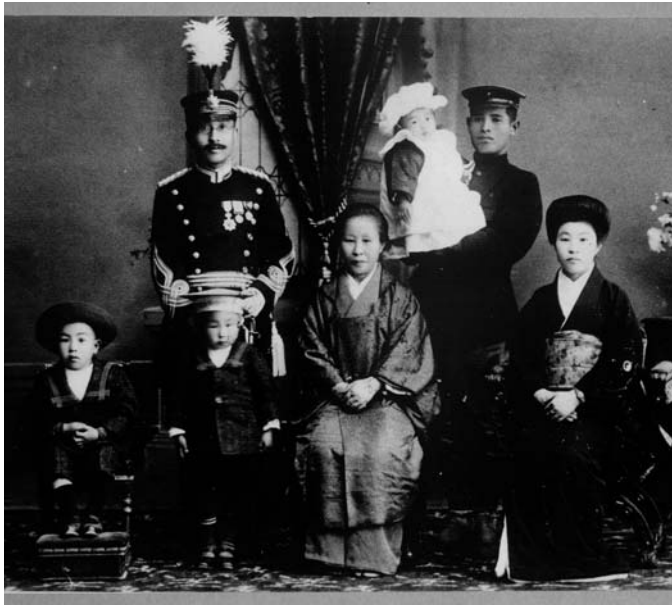
入館料 一般・大学生…300円 | 65才以上…200円 | 団体(20名以上)…250円 | 高校生以下…無料 9:30~17:00(入館は16:30まで)

中原中也「金澤の思ひ出」より (昭和9年)

私が金沢にいたのは大正元年の末から大正三年の春迄である。住んでいたのは野田寺町の照月寺の真ン前、犀川に臨む庭に、大きい松の樹のある家であった。その松の樹には、今は亡き弟と或時叱られて吊り下げられたことがある。幼稚園は兼六公園の傍の北陸幼稚園であった。行きも帰りも犀川橋を渡らなければならなかった。渡って一寸行つて右に廻る。すると其処に自転車屋があつて大きな犬が飼つてあつた。そいつが怖かった。雪溶の日は犀川橋を渡るのも怖かった。その水の音は、今でもハツキリ覚えている。

犀川の冬の流れを清二郎も泣いてききしか僕の如くに

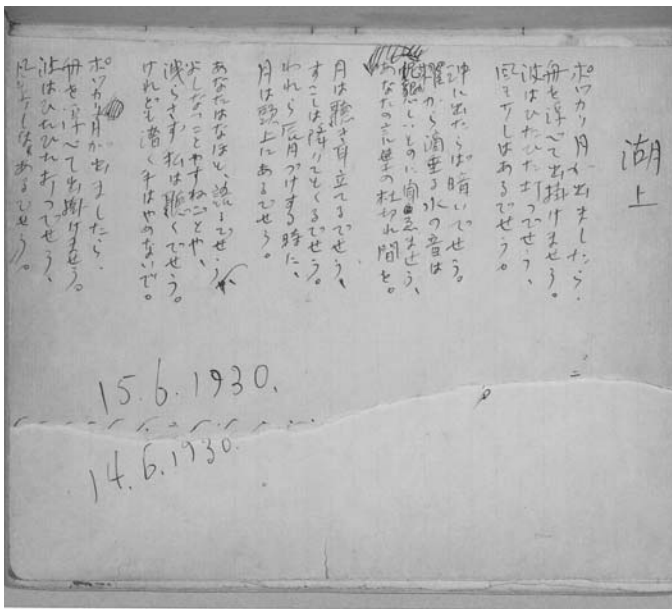
買物に出かける母に連れられし金澤の歳暮の懐しきかな
出してみる幼稚園の手工など雪溶の日は寂しきものを



金沢時代の中也と家族
後父 謙助 三男 怡三
前 中也 次男 亜朗 祖母 スエ 母 フク



5歳の中也(右)と弟亜郎



草稿「湖上」(ノート「少年時」)

※写真は全て中原中也記念館提供



長男文也とともに

山口県の湯田温泉で生まれた中原中也は、軍医の父の転勤によって、5歳の時、金沢に移り住みました。そして下本多町にあった北陸女学校附属幼稚園(現在金沢ふるさと偉人館が建っている)に通っています。通園途中には神明宮や犀川など金沢特有の風景が広がっています。中也が金沢に住んでいたのは1年半でありましたが、幼少期の記憶は少なからず中也の詩や人生に影響を与えたと思われます。約100年ぶりに中也が遊んだ幼稚園の地で、中原中也記念館の協力を得て「中原中也展」を開催します。